

全日本アド連たより



発行・編集

全日本青少年育成アドバイザー
ザー連合会事務局：愛知県春日井市神屋
2286-10

(0568)45-2838

地域を担う中核指導者の養成 〆切 1月15日

アドバイザー養成講習会受講生募集中!

平成25年 2月15日～17日 : (財)愛知県青年会館



昨年度の青少年育成アドバイザー養成講習会 ひようご共済会館

全日本青少年育成アドバイザー連合会主催、愛知県青少年育成アドバイザー連絡協議会主管で、平成24年度青少年育成アドバイザー養成講習会を名古屋市中区の(財)愛知県青年会館で開催します。現在受講生を募っています。定員は80名で、希望者は充分受講できますので、

- ① 青少年の育成指導・教育・支援等、幅広く青少年に関する活動や仕事をしている人。
- ② 青少年指導者としての基礎知識や今日の青少年を理解する手掛かりを学びたい人。
- ③ 住んでいる地域をいきいきとさせる手がかりや相談・助言について学びたい人など、歓迎し応募をお待ちしています。

既アドはフォローアップ研修として参加OK

又、旧青少年育成国民会議が養成した、既青少年育成アドバイザーの皆さんもフォローアップ研修として参加できますので、新しい仲間を増やす活動として取組んで共に参加していただきたいと思います。

この講習会は、(社)青少年育成国民会議が平成21年に財政的に行き詰まり解散し、青少年育成国民運動の地域の担い手である青少年育成アドバイザーの養成ができなくなりました。そこで、当会が、内閣府や全国青少年育成都道府県民会議等連合会、愛知県などのご支援をいただきながら自ら養成しようとするものです。至らぬ点が多々あるかと思いますが、なにとぞご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。

CONTENTS

アド養成講習内容	2
講師陣プロフィール	3
会長参加呼びかけ	4
新アドバイザー認定	5
日本善行会表彰	5
内閣府中央研修会	6
ブロック会報告	7～8
ホームページ開設	8

充実した講師陣と経験豊富なアドバイザーによる

【平成24年度青少年育成アドバイザー養成講習会】

開講式 2月15日 13:00~13:20

研修内容と講師

日(曜)	プログラム	内 容	講 師
15 日 (金)	講義① 13:20 ~ 13:55	子ども・若者育成支援推進法に基づく地域協議会の取組みを学びます。	愛知県県民生活部社会活動推進課主幹 伊藤 弘憲氏
	講義② 14:00 ~ 15:50	青少年の発達過程の特徴と課題について学びます。	愛知教育大学養育学部教授 大村 恵 氏
	講義③ 16:00 ~ 17:30	青少年育成にたずさわるボランティアの現状とあり方、青少年育成アドバイザーの今日的役割を学びます。	群馬大学名誉教授、元アド養成研修チューター 萩原 元昭 氏
	情報交換会④ 19:00 ~ 21:00	受講生と現青少年育成アドバイザーが今活動していることについて発表し語りあいます。	各県青少年育成アドバイザー会代表
16 日 (土)	講義・演習⑤ 9:00~12:00	相談・助言(カウンセリング)の基本と実践について学びます。	日本福祉大学教授 渡邊 忍 氏
	公開講義⑥ 13:00 ~ 14:10	国の進めるインターネット環境整備の現状と今後のあり方を学びます。	内閣府政策統括官(共生社会政策担当)付参事官補佐(青少年環境整備担当) 本田 昭浩氏
	公開講義⑦ 14:20 ~ 16:10	インターネット時代の子育て教育に必要な知識を学び、家庭、学校、地域での実践活動の具体策を学びます。	群馬大学名誉教授、NPO青少年メディア研究協会理事長 下田 博次 氏 講師 下田 真理子 氏
	講義⑧ 16:20 ~ 17:20	青少年育成国民運動の流れを理解し今後の方向を学びます。	(旧)青少年育成国民会議副会長 上村 文三氏
	グループワーク⑨ 19:00 ~ 21:00	現アドバイザーと受講生でそれぞれの地域の課題を出し合い、解決の糸口を探ります。	各県青少年育成アドバイザー会代表
17 日 (日)	事例紹介⑩ 9:00~10:30	現青少年育成アドバイザーの模範的実践(自然環境保護や高校生の相談活動等)を発表し、そこから得た企画・行動のノウハウを学びます。	島根県青少年育成アドバイザー会長 福田 悟 氏 宮城県青少年育成アドバイザー会長 伊藤 順子 氏
	講義⑪ 10:40 ~ 11:50	地域には様々な青少年団体や育成機関があり、隣のおじさんやおばさんもいます。それらと連携し「地域の子どもは地域で育てる」環境をつくるにはどのような考え方と手法で取組めばよいか学びます。	愛知県青少年育成アドバイザー会相談役 小田 元一 氏

主な講師のプロフィール（敬称略）



大村 恵：名古屋大学教育学部卒。現在、愛知教育大学教育学部教育科学系学校教育講座・教授。青年期教育、社会教育を研究分野とし、愛知県のユースワーカー養成講座、県青少年育成アドバイザー研修、豊田市・日進市の子ども条例策定などに関わり、現在豊田市子どもにやさしいまちづくり推進会議委員、同市子どもの権利擁護委員など務めている。



萩原元昭：東京教育大学大学教育学部教育学科卒。現在、群馬大学名誉教授、日本環境福祉学会理事。東大・京大・阪大・広大・東京教育大学院講師、九州大学・東京家政大学大学院客員教授・青少年育成国民会議中央委員を歴任。日本保育学会常任編集員会委員長、日本教育社会学会理事、日本社会教育学会名誉会員。著書に「子どもの参画—青少年参画活動支援の方法」「多文化保育論」「やさしい教育学原論」「幼時教育の社会学」など。



下田博次：群馬大学名誉教授。早稲田大学第一商学部卒業後、雑誌記者、放送番組制作などを経て、2008年まで群馬大学社会情報学部大学院研究科教授となり、退職後特任教授、現在名誉教授。環境NPO「富士山クラブ」理事等NPO活動を自ら実践。警察庁「少年のインターネット利用に関する調査研究会」座長、市民主導のIT（情報技術）革命を唱え、妻真理子とともにホームページ「ねちずん村」を主宰、子ども達のインターネット・携帯電話利用問題に取り組んでいる。著書『学校裏サイト』（2008年、東洋経済新報社）『子どものケータイ利用と学校の危機管理』（2009年、少年写真新聞社）他、多数。



下田真理子：2001年に夫（下田博次）と共に、子どものインターネット利用を考える「ねちずん村」を立ち上げ、保護者の立場で、子どもたちのインターネット利用問題に取り組んできた。インターネット機能の付いた携帯電話やゲーム機の安易な買い与え方に潜む危険性を多くの保護者に知っていただき、ペアレンタルコントロール能力を身に付けていただきたいと願いながら講演会、講習会を行っている。ねちずん村・メディア学校を創設し、「市民インストラクター」の養成に取り組む。



渡邊 忍：日本福祉大学社会福祉学部卒、日本福祉大学大学院社会福祉研究科修了、名古屋市若葉寮児童指導員、名古屋市児童福祉センター相談課児童福祉司、心理判定員、非行専任児童福祉司など歴任し現在日本福祉大学教授。心理臨床修士。児童虐待、非行児童の援助、家庭支援の研究、学校臨床の研究、社会福祉専門実習のあり方について等を研究テーマとしている。社会活動としてNPO法人「子どもセンターパオ」理事など多数。



上村文三：元（社）青少年育成国民会議副会長。昭和41年青少年育成国民会議発足から事務局に入り事務局長、専務理事を経て平成9年から平成20年まで副会長。その間、青少年育成国民運動の中核的役割を果たした。平成元年から10年まで流通経済大学非常勤講師。現在全日本青少年育成アドバイザー連合会顧問、公益財団法人日本ユニセフ協会理事、財団法人日本善行会善行表彰委員会委員。

- 1 趣 旨 少子高齢化や経済のグローバル化、高度情報通信社会化の中で新しい青少年育成が課題となっています。青少年の心身の発達過程を理解し、その健やかな成長と自立を支援するための専門的な知識や技術を学び、地域における日常的な各種青少年育成活動の中核となる指導者を養成します。
- 2 後 援 全国青少年育成都道府県民会議等連合会、愛知県、愛知県教育委員会、愛知県青少年育成県民会議、愛知県青少年団体連絡協議会
- 3 期 日：平成 25 年 2 月 15 日（金）～17 日（日）【2泊3日】
〔受付：15日 12:00～13:00〕
- 4 会 場：（財）愛知県青年会館（名古屋市中区栄 1-18-8 電話 052-221-6001）
- 5 対象者： ①青少年の育成指導・教育・支援等、幅広く青少年に関する活動や仕事をしている人。②青少年指導者としての基礎知識や今日の青少年を理解する手掛かりを学びたい人。③住んでいる地域をいきいきとさせる手がかりや相談・助言について学びたい人。
- 6 募集定員 講習会受講者 80 名（先着順）
- 7 参加費 20,000 円(2泊3日の経費、宿泊費、食事代を含みます)。宿泊のみ別にされる方は 12,000 円（経費、3食付）。既アドバイザーの方の部分参加の場合も含めて納入額等につきましては別途案内いたします。

※ 詳細や申込方法は募集要項やホームページ「全日本アド連」で検索してください。
【研修についてのお問い合わせ】

愛知県青少年育成アドバイザー連絡協議会事務局長 峠 テル子
電話（0568）88-1050 携帯 090-1989-7410

アドバイザーの仲間を増やし、 青少年育成の輪を広げよう

全日本青少年育成アドバイザー連合会長 宇野 晃



私達青少年育成アドバイザーの生みの親の（社）青少年育成国民会議が解散し3年経過しました。このままでは、アドバイザーの皆様は高齢化し、青少年との接点がなくなり、また、気力が薄れて青少年育成活動から離れるばかりとなります。アドバイザーの活動が①地域の「隣のおじさんおばさん」としての地道な取組み、②青少年育成組織にかかわり、活性化プログラム企画への支援、③課題解決のための地域連携推進、④青少年育成都道府県民会議を始め市町村民会議を支援し運営基盤づくりに力をそそぐこと等で意味がある活動と認めるならば、このアドバイザーを末永く継続させ現代社会に、マッチした具体的活動を展開する必要があります。それだけに、今回の養成講習会は一定の参加者を得て成功させなければなりません。

講習プログラムも旧（社）青少年育成国民会議が養成したものと、ボリューム的には弱い面がありますが、青少年育成に造詣の深い専門家の先生を多数お願いしました。また、ネット社会に対応する青少年育成施策の国の担当者や既にアドバイザーとして長年務められ、組織活動においても顕著な活動をされている同志も、講師としてお願いいたしました。講義とベテラン既アドバイザーを配置したグループワークで中身を深めたいと思っています。

11 月末に行われた内閣府主催の中央研修会で青少年育成は地域の力が必要と基調講演が

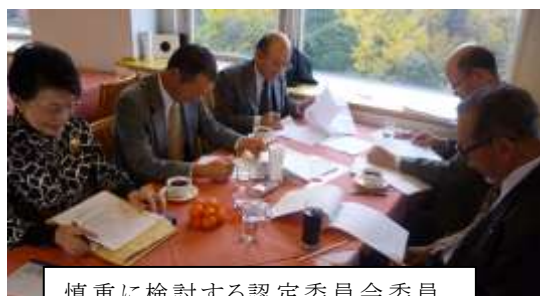
ありました。少子高齢化、価値観の多様化、さまざまな分野で自由化が謳われる風潮の中で、地域の中での新たなる連携や連帯、育成の必要性が強く叫ばれてきています。そしてその中核としてまとめ役や調整、深化、推進していく人材も必要とされています。その役割を私たち青少年育成アドバイザーに求めたいと思います。

各方面にチラシを配布し、受講生を募っていただきたいと思いますし、この機会に既青少年育成アドバイザーの皆様も青少年育成アドバイザーとしての今日的役割を考える機会として参加していただきたいと思います。

新青少年育成アドバイザー10名誕生！

11月30日認定委員会開催

昨年度神戸市で行われた青少年育成アドバイザー養成講習会で終了証の交付を受けた方で、今年度11月27日まで2本の小論文を提出し、県青少年育成アドバイザー会長の推薦を得た受講生に青少年育成アドバイザーとしてふさわしいかどうかの認定をする委員会を東京のオリンピック記念青少年総合センターで開催しました。上村文三顧問をはじめ研修専門委員が慎重に小論文を読み点検し、その結果、10名の方々に全日本青少年育成アドバイザー連合会認定青少年育成アドバイザーといたしました。



慎重に検討する認定委員会委員

アドバイザーとして認定されて、これではよくなく、学ぶことが多くありますので、これを契機にさらに、精進しにさせていただくことを願い、また、地元県アド連に加入されともに行動する中で成長されることを期待します。（事務局）

以下認定された方々です（敬称略）。

愛知県 國分光一郎

岐阜県 渡辺保秋 栗本貴美子 伊藤和男 森田重勝

兵庫県 鳥山すゞ代 中井安喜夫 高橋貞美 藤波進 瀬戸山ヒロ子

善行会表彰式でアドバイザー5名受賞



会長から表彰を受け皆さんに挨拶

昨年度、顧問の上村文三先生から（社）日本善行会表彰推薦団体に推挙していただき、今回初めて全日本アド連から5名の方々を推薦し、表彰をいただくことになりました。秋季表彰式は11月17日（土）東京の明治神宮参集殿で行われ、全日本アド連から稲垣善夫氏（富山県）と峠テル子（愛知県）の2名が出席し善行会長の藤田耕三さまより表彰を受けました。今回はブロック別を考慮し、他に次の方々が受賞しました。

仮屋 茂（茨城県）、
荒井勤（兵庫県）、
福田悟（島根県）



表彰委員会の上村顧問（左）と表彰を受けた峠テル子さん（中）、稲垣喜夫さん（右）

※社団法人日本善行会とは：この会の目的は、善行の表彰並びに善行精神の普及と善行の実践を通じて明るい住みよい社会環境づくりに務め、もって国の発展と国際親善に寄与することを目的としている。事業として①善行表彰：春5月と秋11月②善行精神の普及：機関紙の発行③善行実践活動：各支部、環境美化、善行芸能等行っています。（事務局）

全国青少年育成都道府県民会議など連合会の総会開催

青少年育成都道府県民会議連絡協議会の総会が11月30日オリンピック記念青少年総合センターで開催されました。18県の県民会議会の代表が参加し、会則や予算等を決めました。名称

を「全国青少年育成都道府県民会議等連合会」とし、年会費は 5,000 円で連絡調整と内閣府との連携の窓口となることなど決めたとのことでした。

事前に八村輝夫会長さんに後援をお願いしたとき「アドバイザーの皆さんの協力を得ながら進めていきたいと」とおっしゃられていました。全日本アド連として今回のアドバイザー養成講習会の後援を早速いただきました。動き出した新しい連合会と連携をとり全国青少年育成運動の充実と後継者育成を図っていきたいと思っております。（会長 宇野晃）

なお、の加盟団は次のとおりです。

北海道、青森、秋田（理事）、宮城、福島、群馬、茨城、栃木、福井、山梨（副会長）、長野、岐阜（理事）、三重、滋賀、京都、和歌山（理事）、鳥取（会長、事務局長）、鹿児島（理事）

平成24年度子ども・若者育成支援のための 地域連携推進事業中央研修会報告



内閣府中央研修会で挨拶する金子政務次官

平成24年度子ども・若者育成支援のための地域連携推進事業の中央研修会が11月29日・30日に亘って国立オリンピック記念青少年総合センターで行われ、各都道府県から選抜された方々や、多くのアドバイザーの方も見受けしました。

第1日の冒頭に社会貢献青少年表彰式があり10の団体や個人が大臣表彰を受けました。その後、シンポジウム「地域の力：支えあう関係をつくる」があり基調講演で静岡県立大学国際関係学部教授の津富宏氏のお話がありました。

津富氏は閉塞する日本ではニート問題の本質は雇用や市民、障害者としての椅子がなく、椅子取りゲーム化している。タテ割りは制度の私化による社会的排除が起こり、私化を乗り越える公共、行政と市民の関係を見直すことが必要だ。椅子を創り出す「つながり」は、行政が地域を統治するのではなく、コミュニティが地域を統治する。その

のためには①地域のつながりの質を見直す。②力のあるNPOがガバナンスする「新しい公共」ではなくコミュニティがガバナンスする。その意味でのつながりは①パブリックな社会資本をつくる②開かれた空間・コミュニティ、協働・連帯の場、討議・意見形成の場が必要だ。「共に」（パブリック）を創り出すことで大事は「参加の保障」だ。震災後の仮設住宅で最初につくられたものは、共同喫煙所でこもっている人がでてきた。出会いの場・公共の空間となりミーティングの場となり、次につながっていく。と話されました。

関わっている3つの事例を紹介されました。

① 青少年就労支援ネットワーク鈴岡

人が育つのは職場であるという信念で、ただちに職場につなぐことで高い就労率を達成している。「お節介」がキーワード。働くことで人生が変わる。

② 秋田県山本郡藤里町社会福祉協議会

就労支援を行うためにひきこもり調査を実施した。人口3,892人 ひきこもり113人 高齢化率39.7%であることが分かり、みなさんが出てくる場として福祉の拠点「こみっと」開設した。福祉で町おこしの発想をしている。

③ 愛媛県南宇和郡愛南町のネットワーク

社会復帰施設平山寮の共に生き共に働く場づくりを目指し、福祉ボランティアを発展させ、ネットワークを広げ、地域の課題と向き合い、「身の丈」で「幸せ」、かつ「持続可能」な地域づくり（生業創りやつながりながら暮す）をしている。福祉リサイクル活動やNPOなんぐん市場経営を運営している。とのことでした。

基調講演後に津富宏氏のコーディネーターで「地域の力：支えあう関係をつくる」テーマのパネルディスカッションがありました。

パネリストは、大阪府立布施北高等学校教頭の中嶋義博氏と横浜市都筑多文化・青少年交流プラザ館長の林田育美氏で、中嶋氏は、高校の「デュアル実習」で基礎学力の定着と地域の教育力をいかした実践的なキャリア教育を専門コースで行っている。これは、1年間を通じた週1回・まる一日事業所での職場体験活動を行い、社会の一員として「ほんまもん」の仕事や社会に触れ、自分を鍛え、将来のキャリアデザインを行うシステムとのこと。

林田氏は館長として中高生の社会体験事業で、夏休みに受け入れ先106ヶ所づくり、中高生200余名が参加するボランティア体験の場をつくっている。社会体験を通して、青少年が成功体験を積み重ね、自己肯定感をもてるようなきっかけをつくるようにしている。大切なのは、青少年と地域をつなぐこと。そのためにはつなぎ役（コーディネーター）が必要で、地域の皆さん一人ひとりが大切なつなぎ役でもあると話されました。

2日目は「地域で育つ子ども・若者～地域にネットワークをつくる」、「キャラ的コミュニケーションの光と影～今日のいじめ問題から考える～」、「子どもの行動をどう理解するか～対人関係力という視点～」、「青少年の問題を解くヒント 太陽の法則」といったテーマで分科会研修会が行われました。（会長 宇野晃）

「平成24年度 中国・四国ブロック&九州ブロック 青少年育成アドバイザー合同研修会 in 広島大会」

全日本青少年育成アドバイザー事務局長 峠 テル子

私は、8月24日・25日に開催された「平成24年度 中国・四国ブロック&九州ブロック青少年育成アドバイザー合同研修会 in 広島大会」の内、24日の交流会と25日の研修会に参加させて頂きました。

夜の交流会では、午後のスポーツ実習『ミニテニス』等への参加の後という事もあってか山本会長さん始め参加した会員の皆さんが、意気盛んに盛り上がっています。

交流会場で中国・四国の会員さん・そして九州の会員さんと私が、お互いに目と目が合うと「あらーお久しぶりー」と声を掛け合い、これこそ全日本アドバイザーの仲間だと感動を覚えた瞬間でした。

翌25日午前、アドバイザーのチューターであられた萩原元昭先生のご講演でした。



合同研修会に参加されたアリの皆さん

ご講演では、《今迄の、「青少年の社会参加」という概念から「子どもの参画」一参画型地域活動支援の方法一》を力説され、青少年育成活動の中に「子どもの参画」をテーマにしたものを組み込むことが重要であること等今後の活動の方向をご教示頂きました。

素晴らしい『in 広島大会』に参加出来たことを感謝します。有難うございました。

なお、来年平成25年2月には、全日本青少年育成アドバイザー養成講習会が全日本アド連の

宇野会長の地元 愛知県で開催されます。

この日本中に多くのアド仲間を増やしましょう！ 何処の県にお邪魔してもアド仲間親しく「今日は!」と声を掛け合える人生って本当に楽しいです。

近畿地区青少年育成アドバイザー研修会

全日本アド連会長 宇野 晃

平成24年度近畿地区青少年育成アドバイザー研修会が11月18日（日）京田辺市社会福祉センターで、京都府青少年育成アドバイザー協議会主管で行われました。会場は京田辺市在住の田居友一さんが、センターを利用する団体で「ボランティア のぞみ」の会長をやっている関係で安く借りられるのでここを選んだとのことでした。

参加者は25名で、活発な意見がでました。

資料に先に近畿ブロックで開催された内閣府の「子ども・若者育成支援のための地域連携推進事業」に京都のアドバイザーが参加したとのことで、そのとき配布された内閣府の子ども・若者育成支援施策の概要が添付されていて、学んだことを仲間にも知らせる機会になり、大変良いことだと感じました。

★各県の報告として

京都：まとまって事業をやっていない、それぞれ各自が頑張っている。会費2,000円で情報を伝えている。内閣府の施策は地域で支えるというが、いじめ、ニート等の広がり、どう支えるのか今後考えたい。

兵庫：第16回中年メッセージの事業を行う。言いたいことが言える場で今回は夢を語る場とする。会員が少なくなっていて、昨年度のアド養成研修で今回4名ほど新しく増えることになり歓迎したい。

滋賀：高齢化現象で総会が未開催。個人的には行政の委員になっている方がいる。県民会議との連絡が付き、事業に参加するようにしている。独自に事業ができないのが現状だ。

大阪：春の総会で解散となった。13名の会員で定例会で3~4名しか集まらなくなった。大阪府の地域づくりコーディネーターの流れの中でなくなった感じだ。

和歌山：会員10名で年会費3,000円。5万円公益法人和歌山県青少年育成協会から補助金をもらっている。コーチングの研修会を行い、子どもとの信頼関係を築くことをねらいとしている。課題解決のレベルアップをねらっている。

★全日本アド連とアド会の今後については、全日本アド連としては、後継者養成で、2月15・16・17日の青少年育成アドバイザー養成講習会に賭けている。この成功が今後のアドバイザーの方向が見えてくる。全日本アド連がこけては日本全体のアドバイザーがだめになる。協力願いたいと強調しました。

★今後のアド会の組織や後継者育成などの活性化等

いろいろな活動実践の報告があったが、要は現在は青少年育成対象年齢が40歳未満と変わってきた。人間が変わらないが、時代が少子高齢化と変わった。地域環境も変わった。価値観の多様化で育成の方法も変わってきた。アドの活動が時代と乖離していないだろうか。これからは社会変化に沿った活動をしていく必要がある。そのためには日頃の実践を積み上げる必要があるといった結論となった。

このアドバイザー研究会に参加して思ったことは、アドバイザーの皆さんは高齢化し、元気が出ないということと、明確な目標やビジョンがなく、組織的な活動が弱いということとあります。自分の反省も含め、旧来の経験でなんとなくこのような方向がアドバイザーだと思うのではなく、確固としたビジョンを再構築し組織的活動で盛り上げていかなければならないと感じました。夕食の京料理は美味しくいただくことができました。

全日本アド連のホームページを立ち上げました

従来ホームページから新しいホームページを11月に立ち上げました。「全日本アド連」又は「<http://adoren.jp/>」の検索でヒットします。活動方針やアドバイザー養成講習会要項も載せました。一度ご覧いただき、ご感想や要望等いただきよりよいものをつくっていきたくと思っています。（事務局）

行事予定

- 1、全日本アド連主催青少年育成アドバイザー養成講習会
H25年2月15・16・17日 愛知県青年会館
- 2、第17回全日本アド連総会・研究集会
H25年6月23・24日 札幌市札幌サンプラザ（只今参加予定者数受付中）

【編集後記】

「光陰矢の如し」のことわざがあります。月日の経つのは早いものです。2012年も残り僅かと成りました。全日本アド連の課題は、後継者の養成です。アクションはエネルギーが要ります。行動が変化を呼び、前進となるのです。多くの受講生を得てアド養成講習会を成功させなければなりません。残り日を悔いのないようにし、輝かしい新年を迎えたいものです。（編集担当）